

令和4年度の基本方針(事業計画)と自己点検・自己評価と外部評価について

重 点 目 標	関連する評価指標		令和4年度 目 標 値	令和4年度 実 績 値	達成率	自己点検・自己評価	外部評価
	基本的 運営方針	評価項目					
1 地域の情報拠点としての情報資源整備 (1) 蔵書構成の再検討や中長期的な収集方針に基づく資料選定を行うとともに、県民の多様なニーズに対応する資料の収集、適切な資料管理と保存環境の改善を進める。 (2) 山梨県図書館情報システムを活用し、デジタル化資料の充実と利用促進を図るとともに、新型コロナウイルス感染症対策として、webサービスや非接触型情報機器を活用した情報提供に取り組む。	I	(2)貸出	388,000点	366,217点	94.4%	・図書館サービスの根幹ともいえる資料の収集については、選定方針に基づいて収集を行い、県民の利用に供している。課題解決資料、多言語資料、子ども読書支援資料、地域資料等の各分野のバランスを考慮し、多様なニーズに応えられるよう計画的に収集した。また、蔵書の充実に伴って、収蔵スペースの確保も必要となり、令和4年度に地下書庫の書架増設を行い、適切な資料保存環境の整備に取り組んだ。 ・コロナ禍による利用制限が徐々に緩和される中、県内各図書館が工夫の上、平常時に近い図書館サービスを展開するようになってきたことから、各図書館の利用やニーズが増え、結果として相互貸借の申込件数が増加してきている。今後も県内図書館を支援できるよう、資料を収集し物流体制の維持に努めたい。 ・山梨デジタルアーカイブ事業計画に基づき、年間目標である約5,000枚のコンテンツを作成し、地域資料の良好な形で保存・充実を図っている。また、ジャパンサーチ等の他機関とも連携することで、効果的に多くの人がコンテンツにアクセスし活用されるよう取り組んでいる。 ・当館主催の研修会等は、感染拡大防止対策として収容人数が制限され、募集人数が減少したことにより、参加者数を増やすことができず目標値に達しなかったが、オンラインの併用も積極的に行ったことで、学校図書館や大学図書館などこれまで参加が少なかった所属からの申込が増え好評を得た。一方で、ワークショップや実技など対面の形式が好ましい場合もあった。	・資料収集については、計画的に進められている。必要な人に必要なものが届くよう潜在的なニーズを把握し、限られた予算の中で充実を図り、利用促進のための工夫を続けてほしい。他県と比べると実数は劣るが、人口10万人あたりで見ると上位にあり、小さい県の図書館ではあるが努力している。 ・県のネットワークによる公共図書館間の相互貸借や広域返却など、県民にスムーズに提供できる体制が整っており、利用者に喜ばれている。広く周知する必要がある。 ・地域資料の寄贈受入については、資料の存在を知ることから図書館資料として提供するまで、様々な作業が伴うが、県民や他館からの期待も大きいので、引き続き増加に努めていただきたい。地域の家庭などに潜在する地域資料を収集するためのPRを工夫する必要がある。 ・地域資料保存・提供に有効なデジタルアーカイブの作成は、目標を大きく上回っており評価できる。ジャパンサーチ等との連携も図っており、山梨県の貴重な資料が国内外に広く活用されることが見込まれる。さらなる発展・充実を期待する。 ・ホームページの利用のしやすさ、見やすさなどに検討の余地がある。デジタルアーカイブへのアクセスにも関連するので、より多くの方に見てもらえるような工夫が必要である。また、SNSの活用についても時代に即して柔軟に対応していくことが求められる。 ・研修については、オンラインとの併用により参加しやすくなったことは評価できる。コロナからの回復に伴って対面式のさらなる拡充や参加者のニーズをふまえた研修内容の見直しを検討されたい。
		(3)相互貸借	5,895点	6,166点	104.6%		
		(4)所蔵資料	1,018,251点	1,018,266点	100.0%		
	II	(7)地域資料寄贈受入	4,560点	2,348点	51.5%		
		(9)ホームページアクセス	302,975件	243,507件	80.4%		
	III	(13)多言語資料所蔵数	9,827点	9,732点	99.0%		
		(16)主催研修参加者	1,225人	539人	44.0%		
		(17)子ども読書支援センター資料	3,000点	2,885点	96.2%		
	IV	(18)課題解決資料	2,393点	2,706点	113.1%		
		(23)地域資料	97,561点	97,631点	100.1%		
		(24)デジタルアーカイブ作成	4,300枚	5,680枚	132.1%		
2 レファレンスサービスの充実・周知とウィズコロナ時代に対応したサービスの検討・実施及び中高生の利用促進 (1) 県民が図書館の資源を有効に活用し、知識や情報を得るためのレファレンスサービスを充実させ、周知する。 (2) 利用者のニーズを把握し、ウィズコロナ時代に対応した利用者サービスのあり方を検討し実施する。 (3) 中高生との協働や学校への情報提供により、中高生の読書活動の推進と図書館の利用促進を図る。	I	(1)入館者	920,000人	534,754人	58.1%	・利用者が課題解決のために自ら調べ物ができるよう、過去のレファレンス事例が検索できるデータベースや調べ方マニュアル(パスファインダー)を作成・公開して、調査環境の整備を行っている。また、親しみやすい事例を選定し、わかりやすく解説した事例集を公開することでレファレンスサービスの周知を図っている。 ・調査相談件数は、地域レファレンスを含め、目標値に届かなかった。前年度と比べてメール・電話・文書による件数が減少した一方で、窓口での相談が増加した。感染予防のための利用制限が緩和されるに伴い、直接来館して利用者自身で調査する機会が増えていると考えられる。 ・コロナ禍の利用制限は、感染状況に応じて段階的に緩和措置を行い、感染対策と図書館利用の両立を図った。令和4年度当初には、開館時間を通常に戻し、年度内にはサイレントルーム、視聴覚ブースを一部開放した。利用者に対しては、配布物や掲示物、館内放送などで協力を呼びかけ、出入り口に体温計測器を、館内各所に手指消毒液設置を継続している。 ・図書館ホームページのレファレンス申込フォームによるレファレンスの受付・回答やインターネットサービスによる予約や貸出期間の延長など非来館型サービスの拡充にも取り組んでいる。 ・学校等への講師派遣や校外学習は、コロナ禍により開催自体が減少している中で目標値には及ばなかった。講師派遣の相談が気軽にできるようホームページに「講師派遣研修相談票」を掲載した。引き続き、広報と講師の育成に努めたい。 ・インターンシップに参加した高校生が作成した、おすすめ本のPOPや小中学生の来館者が書いた紹介メッセージをティーンズコーナーで紹介し、同世代からの推薦により読書に興味をもってもらえるよう働きかけた。 ・調べ学習や朝読書などに役立つ本をテーマごとにセットにした学校支援セットの貸出、学校の授業で活用できるブックトークシナリオの提供、年代別おすすめブックリストの作成・配布など、学校への支援・協力を行っている。	・利用者にとって、レファレンス・サービスが身近で気軽に利用できるものだと感じられることが望ましいが、利用者アンケートでは半数近くがサービスを知らないと答えており、「レファレンス」「パスファインダー」などの言葉の意味が県民に浸透していない。あらゆる年齢層に広く周知するために根気強く広報活動続ける必要がある。 ・調査相談、地域レファレンス件数は目標に届かなかったが、図書館ホームページやメールからの受付が可能であること、レファレンス・サービスの利用経験者の満足度が高い点は評価できる。 ・感染状況に応じて開館時間や座席数などの制限を緩和し、柔軟に県民への利便性が図られた。入館者は立地環境を考えると早期に回復することが予想される。今後も利用者のニーズに対応し、サービスの向上のために努力を続けてほしい。 ・中高生から20代の若年層へ向けてのSNSを使った発信と、中高年以上に向けた紙媒体による情報提供の両方を組み合わせて行うなど、対象年代に応じた発信力の充実が望まれる。 ・中高生を対象とした読書活動の推進や学校との協働は、その後の図書館利用の定着のためにも大事な要素である。一度図書館を利用した生徒にまた使ってもらいたいと思わせることに意味がある。そのために、学校への講師派遣や校外学習の受入は非常に有効であり、今後も数多くの実施を期待する。 ・学校への講師派遣・校外学習、学校支援セットの提供は、学校がスケジュールを組むタイミングに合わせて広報を行ったり、学校司書や司書教諭等の集まりに出向いて情報提供を行うなど、学校側のニーズを押さえることより活用されるのではないかと。 ・電子書籍等の普及により中高生の読書形態は変化しつつあり、紙媒体の貸出増加は期待できないかもしれないが、学習の場、調べる場としての図書館の機能は拡大するのではないかと。居心地の良い場所として、地域に見守られているような関係づくりが求められる。
		(2)貸出	388,000点	366,217点	94.4%		
		(3)相互貸借	5,895点	6,166点	104.6%		
	III	(9)ホームページアクセス	302,975件	243,507件	80.4%		
		(10)メディア掲載等	414件	315件	76.1%		
		(11)校外学習利用	120件	93件	77.5%		
		(12)SNS活用件数	2,499人	2,147人	85.9%		
	IV	(14)調査相談	524件	411件	78.4%		
		(15)講師派遣	15人	14人	93.3%		
		(17)子ども読書支援センター資料	3,000点	2,885点	96.2%		
		(18)課題解決資料受入数	2,393点	2,706点	113.1%		
	VI	(25)地域レファレンス件数	1,682件	670件	39.8%		
3 中核図書館としての役割強化及び新館開館10周年記念事業の円滑な実施、施設等の適正管理 (1) 中核図書館としての役割強化を図るため、現在の市町村支援に加え、巡回訪問を実施し意見交換や情報交換を行うことにより、よりきめ細かな支援を行う。 (2) 新館開館10周年事業の円滑な実施のため、クラウドファンディングの広報の在り方などについてもプロジェクトチームで協議するなど、より多くの寄付を集められるよう事務を遂行する。 (3) 施設等の適正管理のため、指定管理者と緊密に連携し、計画的に修繕を実施していく。	I	(1)入館者	920,000人	534,754人	58.1%	・コロナ禍の影響を受けて落ち込んだ入館者数は、令和2年度:269,150人、令和3年度:365,735人、令和4年度:534,754人と徐々に回復し、コロナ前の数に戻りつつある。それに伴って、貸出数も増加しており、令和2年度:280,475点、令和3年度333,346点、令和4年度:366,217点と入館者の回復率を上回る勢いが見られる。目標値には達しないながら、平成30年度の貸出点数を上回った。 ・市町村支援として、各種調査の実施や資料情報提供、専門研修等の実施のほか、年1～2回の担当者会議による意見交換等を実施している。令和4年度は、県内の市町村図書館を地域ごとに8グループに分けて巡回訪問を実施し、意見交換や情報交換を行った。 ・10周年記念事業として、辻村深月氏トークショー、記念冊子の発行、10年の歩みを振り返る写真展などに全館体制で取り組んだ。初の試みとして、クラウドファンディングにより県内外から寄附を募り、目標額の100万円を達成することができた。節目の年にあたり、記念事業にも多くの参加があり、テレビや新聞等にも取り上げていただき、県民の皆様から励ましの言葉をいただいた。 ・イベントスペース、多目的ホールは1年前から、交流ルームは3ヶ月前から予約を受け付け、安定した運営ができています。新型コロナウイルス感染者の減少に伴い、施設利用人数等の制限が緩和され、音楽関係のイベントも開催されるようになったが、適切な案内により混乱もなく順調に対応することができ、利用者が増加した。 ・修繕を要する箇所については、施設・設備の維持管理業務を担う指定管理者と連絡を取り合い、適正管理に努めている。令和4年度は、非常用予備発電機バッテリー交換や電動式移動書架の不具合修理等を行った。	・入館者は、目標値に達していないものの順調に回復している。特に交流エリアの利用・稼働は大きく伸び、県中心部としての賑わいの創出にも役立っており、さらなる利活用が期待される。イベントを目的として来館した利用者に対する読書推進の工夫が望まれる。 ・コロナ禍でも、貸出数が減少しなかったことは大きな成果であり、公共施設として定着した姿であると評価する。 ・閉館する図書館や電算化されていない公民館図書室があるなかで、巡回訪問による意見交換や情報交換は重要である。地域住民への図書館資料の格差、情報格差につながらないよう、地域の中核図書館として、市町村図書館への支援は地道に継続してほしい。 ・新館開館10周年記念事業は、企画内容、クラウドファンディングへの取組と目標達成など、概ね成功裡に実施でき、県民の図書館への関心や期待が高まった。次の10年も現状維持に満足せず発展することを期待する。10周年及び制限緩和により、交流エリアの利用も伸びており、県民の関心をさらに広げるような事業の充実に努めていただきたい。
		(2)貸出	388,000点	366,217点	94.4%		
	II	(5)図書館協力員活動	1,968回	1,547回	78.6%		
		(6)企画事業参加者	8,909人	8,867人	99.5%		
		(8)やまなし読書活動促進事業	4,527件	4,641件	102.5%		
	III	(9)ホームページアクセス	302,975件	243,507件	80.4%		
		(10)メディア掲載等	414件	315件	76.1%		
	IV	(17)子ども読書支援センター資料	3,000点	2,885点	96.2%		
		(18)課題解決資料受入	2,393点	2,706点	113.1%		
	V	(19)交流エリア利用	52,221人	68,738人	131.6%		
		(20)交流エリア稼働	54.0%	66.6%	123.3%		
		(22)連携企画対象	136件	128件	94.1%		